

アクフォ＝アド大統領主催晩餐会における岸田総理大臣のスピーチ

アクフォ＝アド大統領及びガーナの皆様の温かい歓迎に感謝します。

日本の総理大臣がガーナを訪問するのは、2006年以来、17年ぶりのことです。新型コロナウイルスの感染拡大を乗り越えて、日本の総理としてようやくガーナを訪問することができたことを、大変嬉しく思います。

先ほど、アクフォ＝アド大統領との間で会談を行い、重要なパートナーであるガーナとの関係を一層の高みに上げていくことで一致しました。

今回の訪問では、改めて、ガーナが西アフリカ経済の要であることを感じました。日本は、引き続き道路交通、電力等のインフラ支援を行っていきます。

先ほど面会した日本企業関係者からは、ガーナに対する高い期待と、ガーナを足がかりとして西アフリカ全体への投資を促進していきたいとの意気込みを感じました。

既に車両生産を開始しているトヨタ、日産、スズキに続き、ホンダも年内に工場を設立予定です。日本企業によるアフリカ密着型ビジネスも生まれています。両国のビジネス関係の一層の促進を期待します。

また、日ガーナ関係の発展は、野口英世博士の功績なくして語ることはできません。先ほど訪問した野口記念医学研究所では、日本とガーナの研究者が共に学び、成長しながら、アフリカにおける感染症の予防と撲滅に向け、共に取り組む姿を目にすることができました。

野口英世博士はこの地で客死しましたが、博士のレガシーを基に、両国の保健分野での協力は益々強化されてきています。日本は引き続き、マラリアや顧みられない熱帯病を含む感染症への対策に取り組んでいきます。

アクフォ＝アド大統領が注力されているとおり、国や地域の発展と安定のためには「人」作りが重要です。日本は、ガーナの若手行政官の能力構築支援を長年行っています。ガーナは、アフリカではじめて本プログラムを導入した国であり、これまで、約100人の行政官が日本に留学しています。

日ガーナの人的交流も厚みを増してきています。社会課題解決のための事業を興す若手日

本人起業家たちと面会し、両国の交流が今後ますます深まっていくことを確信しました。若い世代の交流が両国をつなぐ重要な架け橋となっています。

最後に、経済成長は平和と安定なくして実現できません。アクラ・イニシアティブ等、ガーナによる平和と安定に向けた取組は称賛に値します。日本は、サヘル地域とギニア湾沿岸諸国の平和と安定に寄与し、持続可能な成長を促進することを目的として、今後3年間で、約5億ドルの支援を行っていきます。また、PKO訓練センター支援を通じ、アクラ・イニシアティブを支援します。

TICAD8では、日本は、アフリカと「共に成長するパートナー」でありたい、アフリカ自身が目指す強靱なアフリカの実現に向けて協力したいとの確固たる意思を表明しました。今回のアフリカ訪問は、日本がアフリカと共に歩むとの強い意思表示です。また、G7議長としても、アフリカ各国の声をしっかりと受け止めました。

今我々はまさに、新しい世界の入り口に立っています。アフリカ、ひいては世界の未来に向けて、ガーナと共に手を携えて歩んでいきます。